



キチジ オホーツク海南部 令和3年度資源評価結果

生物学的特性

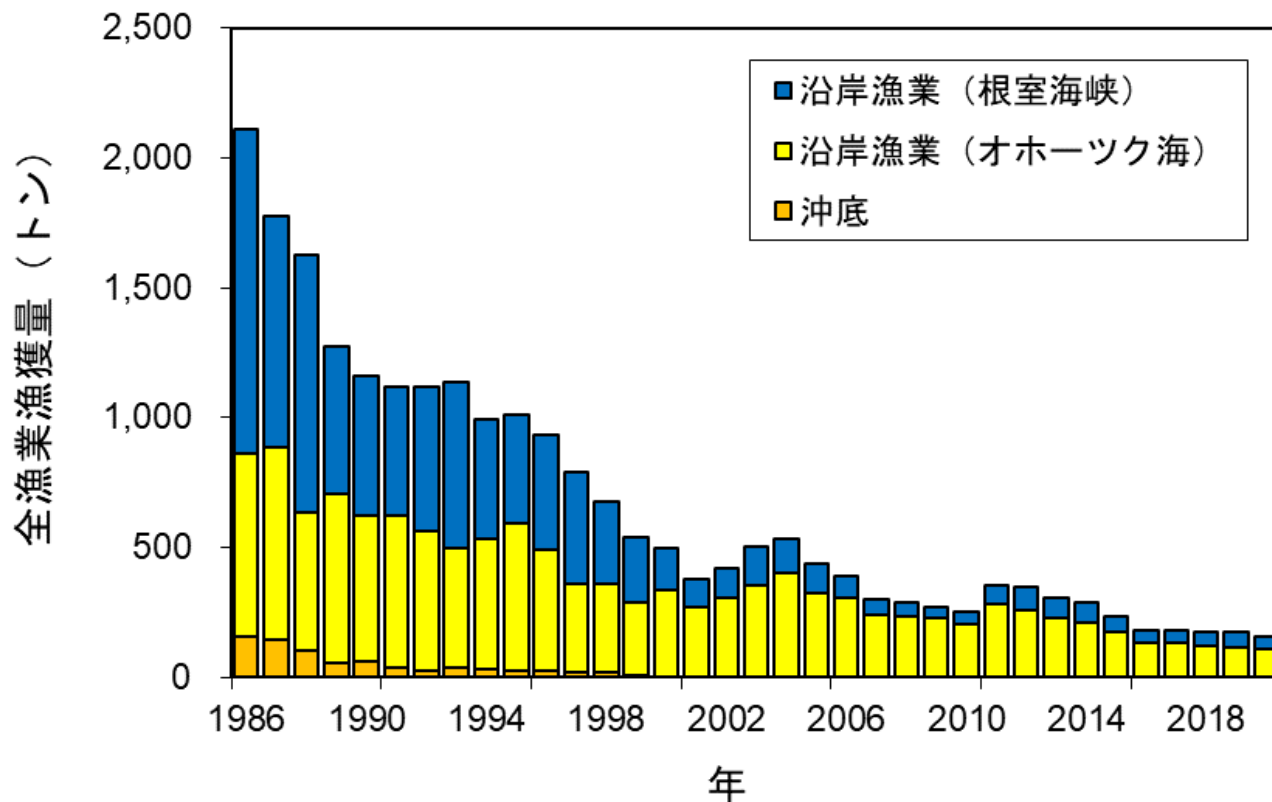


生物学的特性

- 寿命：不明
- 成熟開始年齢：不明
- 産卵期・産卵場：
北海道沖の産卵盛期は4～5
月で産卵場は不明、サハリン
東岸の産卵期は5～10月で産
卵場は水深400～1,100 m
- 食性：
魚類、クモヒトデ類など
- 捕食者：
不明

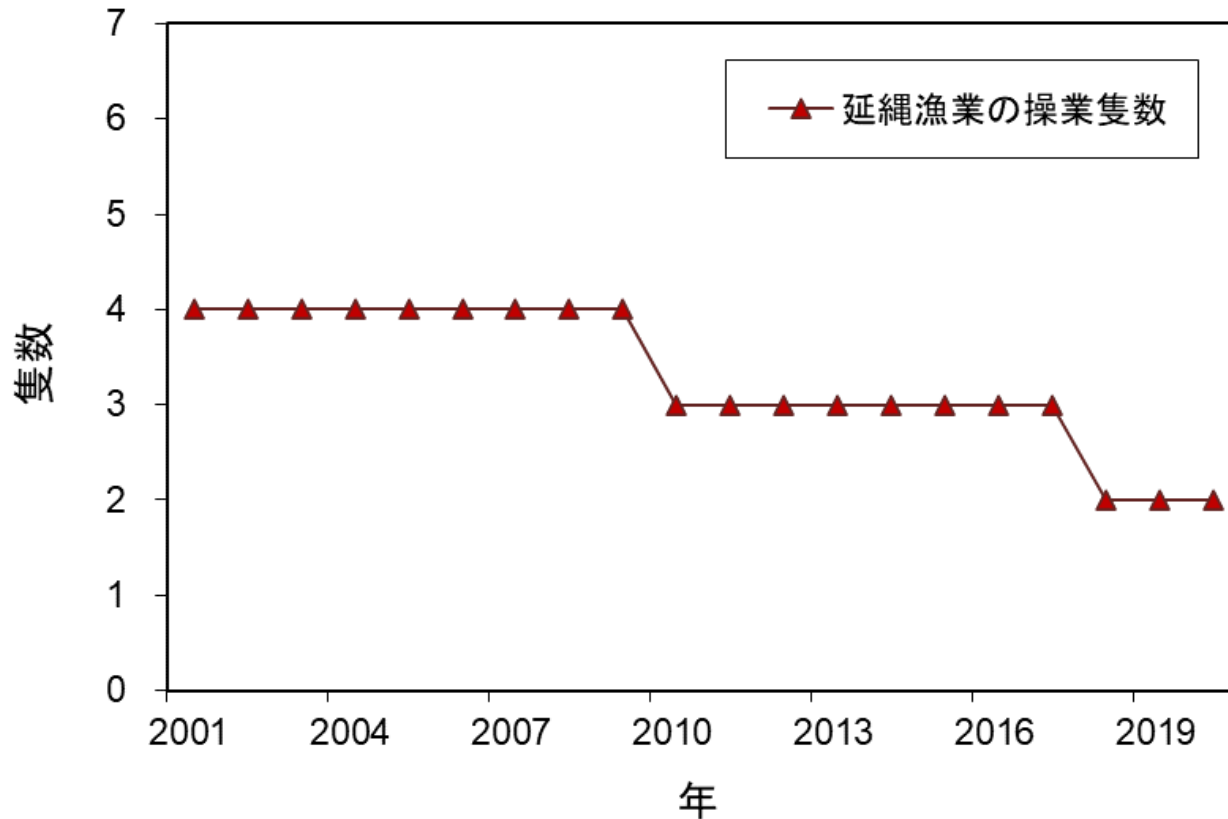
- 主な分布水深（漁場水深）は300～1,200 m

漁獲の動向①



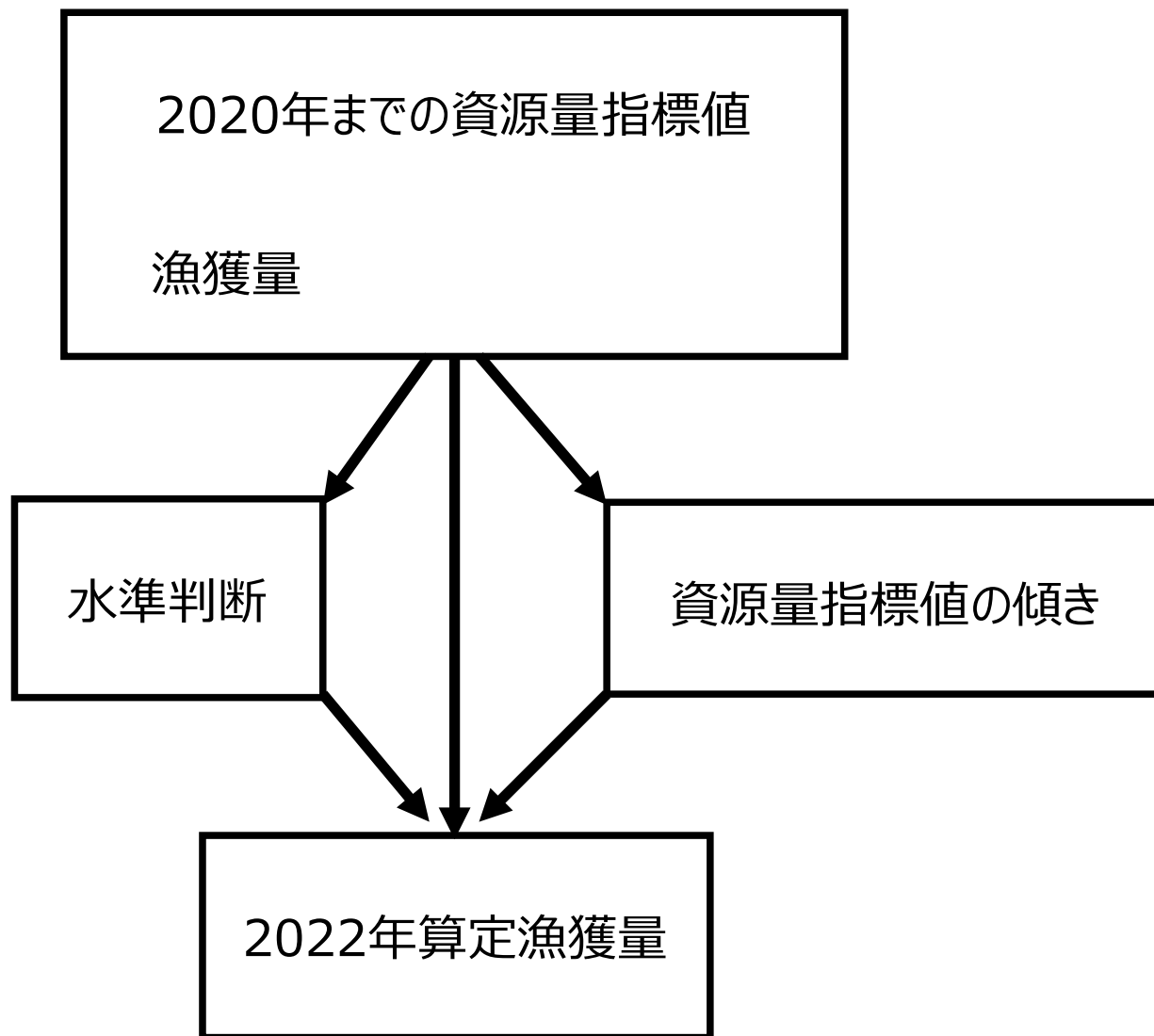
- 主漁法は沿岸漁業のはえ縄と刺網
- 漁獲量は長期的にみて減少傾向
- 1986年に2,000トンを超えていた漁獲量(全漁業種合計)は、2020年は過去最低の160トン

漁獲の動向②

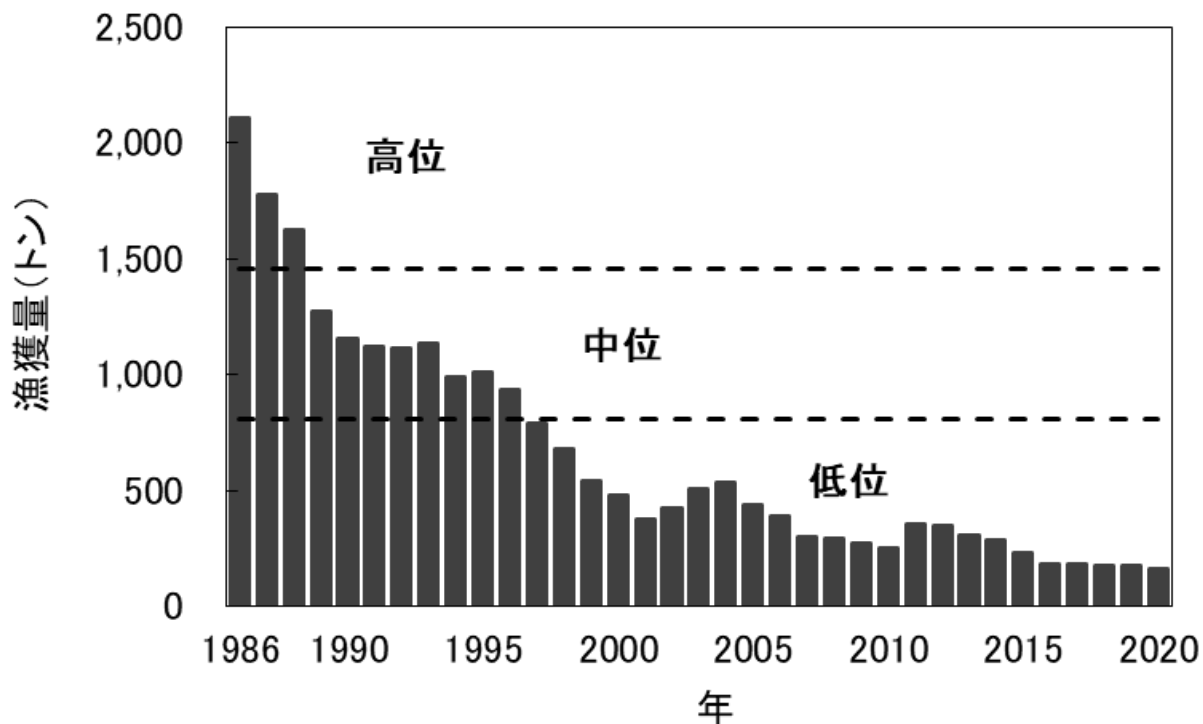


- 資源全体に対する漁獲努力量の推移は把握できていない
- オホーツク海の沿岸漁業の操業隻数は1995年以降に大幅減
- はえ縄漁業の2001～2020年の操業隻数（上図）は安定して推移

資源評価の流れ



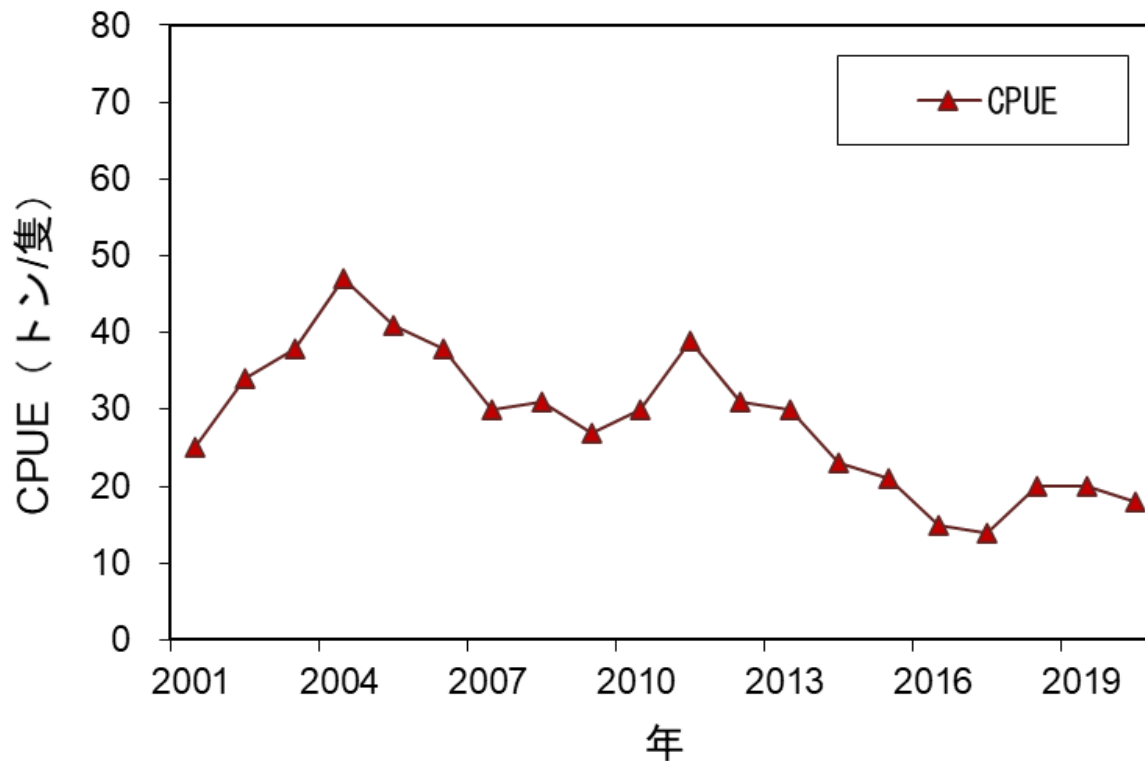
資源の動向①



※水準区分 低位／中位：漁獲量 810トン 中位／高位：漁獲量 1,459トン
(過去35年間の漁獲量の最高値～最低値を3等分して算出)

- 過去35年間の漁獲量の推移から資源水準を判断
- 資源水準：2020年の漁獲量は160トンであり「低位」

資源の動向②



- 資源量指標値（2001年以降のはえ縄漁業の操業隻数あたりの漁獲量（CPUE））により動向を判断
- 2020年の資源量指標値は18トン/隻
- 資源動向：直近5年間の資源量指標値の推移から「横ばい」

資源評価のまとめ

- キチジオホーツク海南部の資源水準は低位、動向は横ばい
- 漁獲量とはえ縄漁業のCPUEに基づいて資源状態を判断

2022年 算定漁獲量

管理基準	Target/Limit	2022年算定漁獲量 (トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの増減%)
0.7・Cave3-yr・0.95	Target	90	—	—
	Limit	110	—	—

- ・ またがり資源であることから、2022年算定漁獲量として提示
- ・ ABC算定規則の2-1) により、 $ABC_{limit} = \delta 1 \cdot Ct \cdot \gamma 1$ で計算
- ・ $\delta 1$: 0.7 (低位水準での推奨値)
- ・ Cave3-yr: 2018~2020年の漁獲量平均値
- ・ $\gamma 1$: 0.95 (資源量指標値の変動から算定される係数)